



2015  
平成27年

誌面に掲載した記事・写真等の無断複製・転載等はお断りします。  
お問い合わせ・ご意見は狛江市地域活性課へ

発行 ●**狛江市地域活性課**  
〒201-8585 狛江市和泉本町 1-1-5  
☎ 3430-1111 FAX3430-6870  
Email=wacco@city.komae.lg.jp

編集・制作 ●**特定非営利活動法人 k-press**  
〒201-0003 狛江市和泉本町1-35-3  
ル・ミリオン・イイダ3階A号  
☎ 3430-6617 FAX3430-6743

昭和45年10月1日に狛江市が誕生してことしで45年。市制施行当時約6万人だった人口は、現在約7万8千人に増えるなど、水と緑のまちとして着実な発展を遂げました。半世紀近い歩みを見つめながら、市制施行当時を中心とした「あの頃」の姿をテーマ別に取り上げます。

第1回は、狛江市誕生前夜の、市制実現までの動きを紹介します。

## 誕生前夜 3度目で昇格実現



市制施行頃の狛江

昭和45年8月12日、狛江町議会で市制へ移行する決議案が全会一致で可決され、「狛江市」の誕生が決まった。

長年の懸案だった市制への道がようやく開かれた瞬間だった。狛江が市になる機会は、それまでに2回あった。

最初は、狛江町となった翌年の28年。同年10月に町村合併促進法が制定されたのを受け、苦しい町財政からの脱却を主な目的に町村合併促進特別委員会が12月に設置された。隣の調布町、神代町から合併の動きかけがあり、狛江では3町合併案と世田谷区への編入案を検討したが、意見がまとまらないまま、30年に調布町と神代町が合併、調布市が誕生し合併案は消えた。その後も、世田谷区編入を希望する声が強くなり、町を二分する大きな混乱がしばらく続いた。

2度目は40年頃で、市に昇格できる人口を5万人以上から4万人以上に緩和する特例法が制定されたのを受けて、市制への移行が検討された。しかし、40年の国勢調査の結果、狛江の人口は39,978人で、わずか22人足りず涙を飲むことになった。

元市職員の長谷川良二さん(79)は「町会議員が22人おり、その人たちが

と町の規模や状況がよく似ていた国立、田無、保谷が人口をクリアして42年1月1日に市制施行を果たしたことに、狛江は置いてけぼりをくらったようで非常に悔しい思いをしました」と振り返る。

43年頃から国で市に昇格できる人口を3万人以上に引き下げる特例法が検討され、多摩地区をはじめ全国で市への昇格をめざす動きが増えたのを受け、狛江でも市制施行をめざす気運が高まり、44年3月には市制対策特別委員会が町議会に設置され、準備が本格化した。

狛江は、人口については5万人以上を数え、市に昇格する条件のひとつはクリアしていたが、スムーズな市制移行を実現するため、多摩地区の6町をはじめ全国の33の町で組織する新市制実現全国期成会に入り、他の町と歩調を合わせることにした。しかし、8月に特例法の制定が国会の混乱で廃案となり、活動は一端ス

トップ。45年1月1日市制施行の予定も棚上げになった。その後、45年3月の国会で特例法が成立、市制施行への活動が再開した。

市に昇格するには、人口だけでなく、産業、公共施設、上下水道、納税状況など多くの条件があり、それをクリアするほか、さまざまな準備作業を行うため、助役をトップとする準備室が4月に設置され、10月1日の市制施行に向けて町役場をあげて取り組むことになった。

4月15日に市制施行に関する広報の臨時号約2万部を全世帯に配布、市の名前について紙面に切り取り線を入れたアンケート葉書を印刷し、市制移行への賛否、市の名称、意見や要望について市民の意見を聞いた。

アンケートには832人が回答、市制への移行に賛成する人が91.8%と圧倒的多数を占め、反対は7.2%だった。

また、市の名前は、1位の「狛江」が73.5%を占め、2位「こま江」11.5%、3位「こまえ」1.8%を大きく引き離れた。このほか、公聴会を5カ所で開催、市制に関する意見や要望を市民から聞いた。その結果、意見・要望で最も多かったのが道路整備で、次いで下水道、高校誘致、市制施行、市名、交通安全、住居表示などが上位を占めた。

45年10月1日、3度目でようやく、都で19番目の市として「狛江市」が誕生した。

参考資料▶広報こまえ、市制対策特別委員会綴、市制推進特別委員会綴協力▶長谷川良二さん

### 狛江市制45年



▶新連載◀

狛江市の福祉の中心となって活動している狛江市社会福祉協議会。昨年法人化40周年を迎えた社協のトップとして活躍する高木光会長(78)に話を聞いた。

「社協の会長に就任して10年を迎えました。狛江市全体の社会福祉の向上につながる仕事で、大きなやりがいを感じています」  
「会長になったきっかけは、前任の佐藤辨正さんが亡くなられ、社協のほか、市から強い就任の要請がありました。市議会議員だったときに福祉問題に取り組んでいましたし、新しい公職に就くのもいいかなと思って引き受けました。ただ、就任前は会長の仕事がかんなに多岐にわたり、忙しいとは思っていませんでした。会議やイベントなどが年間50回近くあります。会長職は、交通費など若干の手当はありますが、基本はボランティアです」  
「職員がみんな福祉のプロとしてがんば



狛江市社会福祉協議会会長

高木 光さん

▶新連載◀

社会福祉の向上につながる仕事で、大きなやりがいを感じています。

「狛江で好きな場所は多摩川です。いつでも飽きませんね。それと古民家園。生家の長屋門が移築・復元され、すくづれしかったです。お礼の気持ちを込めて植木のせん定のボランティアをしています」

高木光さんの横顔＝狛江の旧家に生まれ、狛江国民学校(現・狛江第一小学校)に通った。東京農業大学造園学科卒業後、家業の造園業に就いたが、昭和58年に市議会議員に当選して弟に家業を譲った。平成15年まで市議を4期務め、この間、7年から11年まで議長を2期務めた。保護司や調布地区防犯協会副会長などを歴任、東京狛江ロータリークラブの会員として活躍。現在は不動産管理業を営む。

「狛江はボランティア活動が盛んで、市民が協力的でありがたいです。福祉というと、障がいを抱えた人や高齢者だけが対象と思われがちですが、社協は人の輪を広げるさまざまな活動も行っていますので、もっと市民の理解を深め、幅広いニーズに対応できるように、福祉全体を充実させていきたいです。社協はあいとぴあセンターの建物にありますので、ぜひたくさんの人に気軽に立ち寄ってほしいです」

「狛江で好きな場所は多摩川です。いつでも飽きませんね。それと古民家園。生家の長屋門が移築・復元され、すくづれしかったです。お礼の気持ちを込めて植木のせん定のボランティアをしています」

高木光さんの横顔＝狛江の旧家に生まれ、狛江国民学校(現・狛江第一小学校)に通った。東京農業大学造園学科卒業後、家業の造園業に就いたが、昭和58年に市議会議員に当選して弟に家業を譲った。平成15年まで市議を4期務め、この間、7年から11年まで議長を2期務めた。保護司や調布地区防犯協会副会長などを歴任、東京狛江ロータリークラブの会員として活躍。現在は不動産管理業を営む。

趣味はスポーツで、柔道は名誉4段、ボーリングはプロ級の腕前。30代半ばから始めたゴルフはハンデ20~25で週1回コースを回るのがリフレッシュの秘けつ。最近、足を痛めた奥さんに代わって買い物に行き料理を作ることもあるが、料理がおもしろくてはまっているという。



### 狛江の桜ガイド 5日に初の桜まつり

ピンクのアーチが続く根川さくら通り

市制施行45周年記念事業として、初の「こまえ桜まつり」が5日午前10時から午後4時まで(荒天中止)根川さくら通り、多摩川住宅二棟中央公園、むいから民家園を会場に開催される。

根川さくら通りの桜は、満開になるとピンクの花が道路を覆い、アーチのように連なる景色が楽しめる。ことしは3月29日日から4日田までライトアップも行われ、夜桜を楽しむ人でにぎわっている。狛江市内には、根川さくら通りだけでなく、桜の名所が多い。

六郷さくら通りも、道路の両側に桜並木が続き、ピンクの帯が続く。多摩水道橋から調布市境までの多摩川土手沿いに桜並木が続き、川の自然と広々とした眺望が楽しめる。

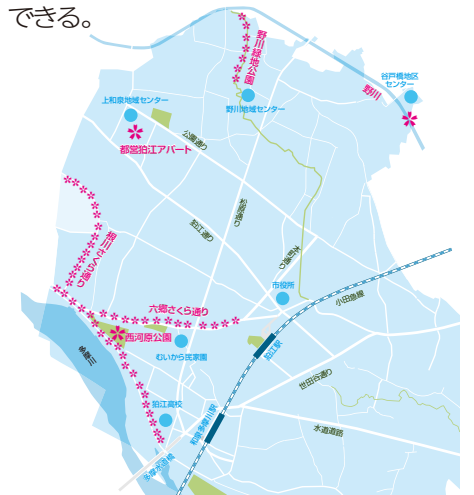
西河原公園とその付近の多摩川土手沿いは市内屈指の花見のスポットで、例年多くの花見客でにぎわう。

都営狛江アパートは団地内の道路や公園に多くの桜が植えられており、幹の太い古木が多いのが特徴。

野川緑地公園は沿道の各所に桜があ

り、野川地域センターから野川までの区間が比較的多い。

野川は流れに沿って各所に桜並木があり、川の自然を楽しみながら花見ができる。



### キラリこまえ

▶新連載◀